



じぶん未来BOOK

日頃接することのない職業を知り 社会に求められる仕事について考察

— 麻布大学附属高校(神奈川・私立) —

取材・文／永井ミカ



進路指導部長
太田隼人先生

School Data

創立1961年／普通科
生徒1095人(男子562人・女子533人)
進路状況(2015年3月実績)大学141人、短大6人、
専門学校27人、就職1人、その他13人

およそ3年前から学校改革に着手している私立麻布大学附属高校。特に進路指導においては、これまでの進路指導をさらに手厚くするのみならず、職業観育成も含めたキャリア教育を導入。「10年後の自分を創造しよう」をテーマに、社会人としてどう活躍するかを考え、学習へのモチベーションを高めたうえで大学入試に挑むことができるようサポート体制を敷いている。

どのような職業が 社会から求められているのか

「キャリア教育を受けてこなかった自分が2000年の就職氷河期を経験。あんな苦労は生徒たちにさせたくないと思いながら、進路指導をしています」と進路指導部長の太田隼人先生。1年生の時期から進路について考えさせたいと、さまざまな仕事をもつ50人の職業観を紹介した『じぶん未来BOOK』を読みワークシートに記入することを夏休みの課題としている。

ワークシートは、仕事診断テストを受け、気になる仕事を調べるといったもの。まずは世の中にどんな仕事があるのかを知ることを目的としている。

そして秋には1年生全員で『じぶん未来DVD』を視聴する。DVDにはさまざまな大学生や仕事人のインタビューがあるが、同校ではその中から、進路選択の失敗談を語る大学生、企業の研究者、企

画開発の仕事をしている人の3人を選んで生徒に見せた。

「仕事人については、普段高校生が目に見えない職業が世の中にあることを知ってほしいので、こういった人選にしました。どのような職業に就きたいかも大事ですが、どのような仕事为社会に求められるているのかという視点をもつことも大事だと考えています」と太田先生。生徒はDVDについてもワークシートに感想を書いた。

モチベーションを上げ 一般入試受験者が2割から5割に

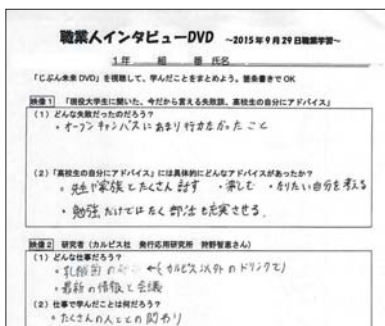
この後、1年生は青山学院大学による学問説明会、リクルートによる文理選択説明会、学校独自の科目選択説明会を経て、考えを深め、1月初めに文理選択をする。

なお、これまで自分の進路について深く考える前に指定校推薦などで進学先を決めてしまっ生徒がいたという反省点を

『じぶん未来BOOK』 ワークシート



『じぶん未来DVD』 ワークシート



から、今年度から同校では、指定校推薦については事前に情報を開示しない方針に変えた。

「例えば、企業内での法務の仕事に興味があるなど、これまでの生徒からは出なかった将来に対する夢が語られるようになりまし。視野が広がりが動機が強くなれば、成績も伸び、周りにもいい影響を与えます」と太田先生。同校では生徒の希望に応じて履修可能な7限セミナーの取り組みを行っているが、太田先生が講義する「偏差値30台からの難関大学合格法」は非常に人気があり、将来の職業を考えたい生徒たちの進学意欲も刺激しているそうだ。

従来は推薦・AO入試で受ける生徒が7〜8割、一般入試で受ける生徒が2〜3割だったものが、今年度はおよそ半数の生徒が一般入試を受ける予定。「キャリア教育の効果を実感しています。今後は文理選択の時期を早めるべく、より早く早めに将来を考えさせていきたいです」(太田先生)